

令和2年度当初予算要望活動を実施!



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行者: 北村 顕吾
〒760-0004
高松市西宝町2丁目4番60号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
AX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/
E-mail: info@kakyoren.com

毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)

会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十五年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

より質の高い教育を提供していくために 教育環境の整備や改善を要望!

国会議員へ



十一月五日(火)・六日(水)に、国会議員の方々に対して「文教関係施策及び関連予算に関する要望」を行った。香教連から、北村顕吾委員長(全日教連副委員長)、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。香川県選出の国会議員を中心に、多くの国会議員の方々に教育現場の現状を伝えるとともに、教職員の働き方改革の進捗状況についても意見交換させていた

県知事へ



十月二十八日(月)十六時三十分より、香川県庁第一応接室において、浜田恵造・香川県知事に対して、文教予算の確保に関する要望を行った。香川県の先生方の現状を伝えるとともに、専科教員による小学校英語の指導体制やスクールサポートスタッフや部活動指導員の増配置、県下で様式などが統一化されたICT活用による校務支援システムの導入等について要望した。



小学校においては、英語の教科化やプログラミング教育の必修化などに伴い、専門的指導力の発揮や学級担任の負担軽減を図るため、高学年での授業の教科担任制を導入していくことや、都道府県単位で共通化した公務支援システムの早期導入を図ること、変形労働時間制の導入などが、教職員の働き方改革に結びついてくるのではないかと提言していただいた。香川県の子どもたちや先生方のためにも、継続して要望していく。

県議会へ



十月二十八日(月)十五時三十分より香川県議会二階議長応接室において、香川県小・中学校管理職員協議会と合同で、大山一郎香川県議会議長に対して文教予算の確保に関する要望を行った。県議会からは、大山議長のほか、西川昭吾副議長、白川和幸文教厚生副委員長、五所野尾恭一県議会議員が出席された。はじめに香菅協・窪田恭子会長から、次いで香教連・北村顕吾委員長からそれぞれ要望書と、香教連からは署名簿も手渡した。香川子どもたちに、さらに質の高い教育が提供できるように要望した。

全日教連専門部長・副部長会議開催



十月十四日(月)、令和元年度専門部長・副部長会議が、東京都都市センターホテル六階第六〇六会議室で開催された。香教連から、北村顕吾委員長(全日教連副委員長)、安部忠明特別支援教育部部長(牟礼北小)、安富慶幸幼児教育部部長(円座幼)の三名が出席した。まず全体会では、郡司隆文全日教委員長の挨拶の後、文部科学省初等中等教育局財務課長の合田哲雄様より、「令和二年度文部科学省概算要求」について説明があった。

次に、八つの各部会に分かれて、第三十七回定期大会議案書(専門部活動方針)の内容や、文部科学省への要望内容の検討、さらに令和二年度年度の活動計画などについて協議した。最後に、各部総括報告として、協議したことを全体で報告・確認した。



温故知新

- 今回は「脳科学の知見に基づく「勉強の原則」についてです。脳の発達と教育について考えてみることも大切ですが、勉強の原則について教えていただいたので御紹介します。
- ① 目標の原則**
目標があると、目標と現在の差を埋めようとする。そして達成すると達成感を持ち、快楽物質ドーパミンがさらに「やる気」をアップさせる。目標を立てて勉強せよ。
 - ② モデルの原則**
脳内のミラーシステムが働き、そっくり真似ることが可能な共感回路ができる。その結果「モデル」(基本型)を真似て学習することができるようになる。「モデル」を生かす勉強は、勉強の基本であることを意識せよ。
 - ③ 復習の原則**
脳は「二度の学習」では必要な情報と判断しない。少なくとも「間を空けて四回の復習」をして初めて長期記憶となる。復習しないと記憶に残らないと心得よ。
 - ④ エネルギーの原則**
睡眠中も、脳のエネルギー・ブドウ糖は五グラムずつ使われている。ところが、そのブドウ糖が肝臓に保管されるのは最大六〇グラム。十二時間後にはゼロになる。だから勉強にとって朝食抜きは大敵。
 - ⑤ 睡眠の原則**
勉強しても六時間以上寝ないと記憶は定着しない。睡眠中のレム睡眠は「記憶の整理」をしている。小学生なら七〜八時間は必要。徹夜は最もダメな勉強法。
 - ⑥ 図と言葉の原則**
絵や図は右脳、言葉は左脳と両方使う方が記憶に残る。だから、図に言葉や補うノート等が記憶に残りやすい。常に図と文でまとめることを意識せよ。
 - ⑦ 休息の原則**
脳は疲れやすい。五十分ごとぐらいに十分の休憩を取り、脳をリフレッシュするのが基本的な脳の使い方である。脳も疲れるのである。
 - ⑧ 集中の原則**
適度な「緊張」適度な「スピード」「変化のある繰り返し」適度な「休息」等が、「集中」を生むことを心得よ。
 - ⑨ 五感活用の原則**
黙読よりも音読。見るだけでなく書くこと。このように視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚を使うと前頭葉が活性化し、記憶に残りやすい。常に五感を働かせ。
 - ⑩ 「全体から部分へ」の原則**
「脳はおおざっぱな性質をもっている。それ故、全体を概観し部分に入る方が理解しやすい。」「全体から部分へ」が勉強の基本。
 - ⑪ 分散学習の原則**
一日六時間勉強するよりも、一日二時間を三日に分けての方が記憶に残る。復習の行えるからである。勉強はまとめてではなく、日頃からコツコツせよ。
 - ⑫ 興味・感動の原則**
興味をもつとシタ波が出る。感動すると扁桃体が働く。そのため、短い回数で記憶に残る。興味をもって勉強せよ。感動の心を忘れず勉強せよ。
 - ⑬ 記憶の原則**
記憶は「記憶・保持・再生・再任のセットで成り立つ。テストに備えて「再生・確認」の出力(自己テスト・確認プリント等)まで勉強せよ。これが、最も必要な「詰め」である。日々の授業に取り組みときや児童生徒に勉強の仕方をアドバイスするとき等、教師側の意識の持ち方として今でも大変参考にさせていただいています。(願)